管領畠山家臣団各論

畠山氏歴代

幕府管領　基国・満慶・満家・持国・政長・義宣

河内守護　国清・義深・基国・満慶・満家・持国・持永・義就・政長

河内守護（総州家）　義豊・義英・義宣・在氏・尚誠

河内守護（尾州家）　尚順・稙長・長経・政国・晴熈・高政・秋高

紀伊守護　国清・基国・満慶・満家・持国・持永・義就・政長・義豊・義英・尚順・稙長・政国・高政・政尚

越中守護　義深・基国・満慶・満家・持国・義就・政長・義豊・義英・尚順・稙長・政国

山城守護　基国・満家・持国・義就・政長

能登守護　基国・満慶・義忠・義統・義元・慶致・義総・義続・義綱

畠山満家越中支配体制

利波郡　遊佐国盛？（勘解由左衛門）

蓮間郡

氷見郡　畠山持永（左衛門督）

中郡　　畠山持富（左馬頭）

射水郡　斎藤（次郎右衛門尉）

婦（姉）負郡　土肥（但馬守）

松倉郡　椎名（小次郎）

新川郡　神保国宗？（越中守）

能州・越州・河州・紀州・泉州・城州・摂州闕（懸）郡

遊佐氏歴代

執事　国重（勘解由左衛門）・国長（河内）？・国盛（左衛門）？・国政（勘解由左衛門）？・国助（弾正？・河内）・

河内守護代　国長（河内）・国盛（左衛門）・国政（勘解由左衛門）・国助（弾正？・河内）・国久？（弾正）・長直（河内）・就家（弾正・河内）・長直（河内）・就家（弾正・河内）・就盛（中務・河内）・順盛（次郎左衛門・河内）・堯家（弾正）・長教（次郎左衛門・河内）・信教（新次郎・越中）

越中守護代　国長（河内）・家長（筑前）・家光（筑前）・国盛（左衛門）・国政（勘解由左衛門）・国助（弾正？・河内）

紀伊口郡守護代　慶国（河内）・家長（筑前）・国継（越前）・盛久（豊後）・直重（三郎左衛門）・長恒（兵庫）・基盛（孫三郎）・順房（勘解由左衛門・筑前）・長清（左衛門）・高清（左衛門・越中）・盛直（勘解由左衛門）

紀伊奥郡守護代　助国（豊後）・家久（民部）・盛久（豊後）

山城守護代　基光（美作）・国助（弾正？・河内）・長直（河内）

能登守護代　基光（美作）・光貞（五郎）・忠光（美作）・統秀（美作）

足利義詮将軍記（康安元年十一月）

畠山国清

畠山義深

遊佐、神保、斎藤、杉原

足利義満将軍記（明徳二年十二月）

畠山基国

遊佐国長、神保氏久？、誉田忠康、斎藤、隅田、蓮花院、高山、熊木

相国寺供養記

畠山基国（右衛門佐源）

畠山満家（尾張守）

遊佐国長（河内守）

遊佐助国（豊後守）

遊佐基光（孫太郎）

遊佐家国（五郎）

誉田（孫次郎）

神保国久（宗三郎）

椎名長胤（次郎長弼）

斎藤基則（次郎）

隅田家朝（彦次郎）

古山胤貞（次郎）

飯尾清政（善六）

門真国康（小三郎）

三宅家村（四郎）

三宅慶明（次郎）

酒匂国頼（酒向次郎）

斎藤利久（彦五郎）

斎藤国家（四郎）

槙島光基（次郎左衛門尉）

槙島光貞（三郎）

杉原貞平（五郎）

井口泰忠（彦五郎）

斎藤利宗（次郎左衛門尉）

佐脇久隆（孫五郎）

吹田国通（孫太郎国道）

斎藤利房（孫左衛門尉利秀）

松田秀久（孫左衛門尉）

稲生基宗（平左衛門尉）

和田正友（太郎）

神保氏久（肥前守）

神保国氏（四郎左衛門尉）

応永三十一年七月八日『看聞日記』

畠山満家（管領）

遊佐（湯佐）、神保、平

応永三十四年八月二十二日

畠山満家（管領）

遊佐助国（豊後入道）、遊佐国継（越前守）、斎藤祐定（因幡守）

正長二年三月九日（1429）足利義教元服式

畠山満家（管領）、畠山持国（尾張守）、畠山持熈（治部大輔持幸）、畠山義忠（阿波守義慶）、畠山持永（左馬助）

永享三年七月十六日（1431）

畠山満家

遊佐国盛（河内守）、斎藤祐定（因幡守）

嘉吉元年六月（1441）足利義教贈太政大臣

畠山持国（尾張守）

畠山持永（左馬助）、畠山持富（弥三郎）

遊佐国政（勘解由左衛門）、遊佐国助？（兄弟三人）、遊佐盛貞？（兄弟三人）、斎藤祐定（因幡入道）父子

遊佐（豊後四郎）

嘉吉二年八月（1442）足利義勝管領出仕

管領　畠山持国

一番左　遊佐国助？（弾正）

一番右　誉田宗長？（三河）

二番左　遊佐（蓮円・蓮間？）

二番右　誉田景実？（入道子息）

三番左　斎藤（六郎左衛門尉）

三番右　土肥

四番左　隅田（洲田右京亮）

四番右　斎藤（兵庫）

五番左　神保国宗？

五番右　椎名（次郎左衛門尉）

『建内記』文安元年四月二十五日（1444）管領申次

畠山持国（管領）

神保国宗？（新右衛門尉）

誉田宗長？（越中子）

『建内記』文安元年五月（1444）管領両使

畠山持国（管領）

誉田（備前入道）

隅田（佐渡入道）

『建内記』文安四年四月二十九日（1447）

畠山持国（守護）

遊佐忠光（美作守）

神保国宗（備中守・射水郡知行）

塩屋（申次）

『建内記』文安四年九月六日（1447）

畠山持国

遊佐忠光（美作守）

神保（孫右衛門・申次）

真野（使者）

『細川政元記』『不問物語』享徳二年（1453）

畠山持国（左衛門督・入道徳本）

畠山持富（尾張守）

畠山義就（右衛門佐）

畠山政久（禰三郎）

畠山政長（禰二郎）

遊佐国盛？（河内守・畠山持富舅・故人？）

遊佐国助？（総領・外戚）

神保

『師郷記』享徳二年（1453）？

畠山義就

畠山政久（禰三郎）

畠山政長（二郎）

遊佐国盛（河内守・別人）

遊佐国助（河内守・義就ノ黨）

神保

『経覚日記』享徳三年四月三日（1454）

畠山持国（徳本禅門）

畠山義就（伊與守義夏）

誉田（与六）、誉田（下総守・与六父）、誉田景実？（遠江入道・与六祖父）

神保国宗、神保宗茂（二郎左衛門尉・嫡子）・神保宗季？（子息三人）

『長禄寛正記』享徳三年四月（1454）

畠山持国（徳本）

畠山義就

畠山政久？（政長）

神保宗季？（宗右衛門）

遊佐長直？（新左衛門）

『重編応仁記』享徳三年四月（1454）

畠山持国（入道徳本）

畠山持富（右馬助）

畠山義就（三郎義夏・右衛門佐）

畠山政久（禰三郎政長・左金吾尾張守）

神保宗季？（総右衛門）

遊佐長直？（新左衛門）

『師郷記』享徳三年四月五日（1454）

畠山持国

畠山義就（伊予守）

神保国宗？（父子四人）、神保宗茂？、神保宗季？

『年代記残編』享徳三年（1454）

畠山義就（伊豫守）

畠山政久（禰三郎成総）

遊佐

神保国宗（備中守・越中守？）、神保宗季？（父子）

土肥

椎名

享徳三年四月三日～八月（1454）

畠山持国（入道徳本）

畠山義就（伊予守）、畠山政久（弥三郎成総）

畠山義忠（修理大夫）

遊佐国助（河内守）、遊佐（七郎）

神保国宗（備中）、神保宗季？（宗右衛門？）

遊佐長直？（新左衛門）

土肥、椎名

隅田（須田土佐守）、甲斐庄、木沢？（木蔵）

『長禄寛正記』『応仁前記』享徳四年七月一日（1455）

畠山義就、畠山政久（同苗弥三郎）

畠山義忠（左衛門佐）、畠山教元？（播磨守）

遊佐国助（河内守）、遊佐国久？（弾正忠）、遊佐（七郎）、遊佐盛貞？（左京亮？・中務丞）、遊佐国継？（孫四郎）

遊佐長直？（新左衛門）、遊佐（二郎左衛門）、神保宗季？（惣右衛門）、神保長氏？（宗次郎）、筒井順興

誉田久康（三河入道）、誉田就康（孫五郎・孫三郎？）、誉田長康（肥前守）、誉田景実？（遠江入道）、誉田（弥三郎）、誉田（彦次郎）

須屋、甲斐庄

龍見（孫左衛門尉）

平石（半石五郎）、小倉（民部丞）、片岡

越智、布施

『経覚私要抄』「安位寺殿御自記」康正三年七月一日（1457）

畠山義就

誉田久康（三河守）

遊佐（七郎）

中村

『経覚私要抄』「安位寺殿御自記」康正三年九月二十三日（1457）

畠山義就

誉田景実？（遠江入道）

長禄四年五月八日（1460）『碧山日録』

畠山義就（太守）

遊佐

神保

木沢（木澤）

長禄四年五月（1460）

畠山義就

遊佐盛久（豊後守）

神保（近江入道）

神保就宗（五郎）

木沢（木澤山城守）

米谷（越中守父子三人）

鹽谷（近江入道）

貴志新庄

貴志三郎

貴志住友入道

梶原海賊

梶原掃部助

雑賀左衛門大夫

和佐加賀守

赤地六郎左衛門尉

田屋次郎兵衛尉

隅田

『長禄四年記』長禄四年八月二十二日（1460）

畠山義就（右衛門佐）

遊佐直重？（三郎）

誉田◆康（孫太郎）

甲斐庄盛直？（小太郎）

甲斐庄正俊？（須屋新左衛門尉）

須屋正景？（孫次郎）

『長禄四年記』長禄四年九月十六日～二十三日（1460）

畠山義就（右衛門佐）

畠山政国（次郎）

畠山義忠（大夫）

誉田久康（三川入道）

遊佐国久？（弾正忠）

遊佐国助（河内守）

畠山政長（尾張次郎）

『大乗院寺社雑事記』長禄四年九月十七日（1460）

畠山義就

畠山政国

遊佐国久？（壇正）

誉田久康（三河）

長禄四年十月十日～十一日（1460）『大乗院寺社雑事記』『経覚私要鈔』「安位寺殿御自記」

畠山義就

遊佐国助（河内守）

誉田久康（祥栄）

誉田景実？（遠江入道・全宝）

甲斐庄

三宅

寛正二年四月二十七日（1461）『観心寺文書』

畠山義就（右衛門佐）

遊佐国久（神保？）

中村助通（左近允）

近藤（四郎左衛門尉）

寛正五年（1464）　畠山政長出仕

畠山政長

遊佐長直？（次郎）

神保長誠（孫三郎）

遊佐長滋？（新右衛門）、

『後鑑』寛正六年十一月二十三日（1465）足利義尚誕生

畠山政長

遊佐長直（次郎左衛門）

神保長誠？（宗右衛門）

遊佐国直？（四郎右衛門）、

『観心寺文書』文正元年十二月十八日

遊佐就家

中村家通（与三）

岡田通春（新左衛門尉）

『山科家礼記』『東寺百合文書』応仁二年五月十四日～十月二十九日

畠山義就

遊佐就家

誉田就康

遊佐盛貞（越中成実）

斎藤宗時（新右衛門）

木沢助秀（兵庫助）

文明元年七月十七日（1469）・文明二年一月十九日（1470）『東寺百合文書』「鎮守八幡宮供僧評定引付」

遊佐就家（五郎）

遊佐盛貞（越中）

『経覚私要鈔』文明三年六月二十二日・七月二十日・二十一日（1471）

畠山義就

遊佐就家（五郎）

遊佐盛貞（越中）

誉田就康

平

文明六年七月二十六日？（1474）

畠山義就（右衛門佐）

遊佐就家（五郎）

遊佐（五郎舎弟弥六）

文明七年二月二十三日（1475）『大乗院寺社雑事記』

畠山義就（右衛門佐）

誉田就康（こん田）

畠山政長（尾張・左衛門守）

文明八年四月二十三日（1476）

畠山政長

遊佐国久（弾正）

杉原賢盛

草部盛春

『東寺百合文書』「廿一口方評定引付」文明八年十二月二十日（1476）

畠山義就

誉田正康

斎藤宗時（新右衛門）

遊佐就盛（中務）

木沢（左衛門佐）

平

『義尚将軍記』文明九年九月（1477）

畠山義就（右衛門佐）

遊佐就盛（中務）

斎藤宗時？（新左衛門尉）

甲斐庄

◆田平

淀小橋

御厨屋

誉田正康？

畠山政長？（左衛門佐）

遊佐長直（河内守）

『尋尊大僧正記』文明九年十月二日（1477）

畠山義就（右衛門佐）

遊佐就盛（中務）

斎藤宗時？（新左衛門）

甲斐庄

須田（ス田平）

淀小橋

御厨屋

誉田正康？

『大乗院寺社雑事記』文明十年八月六日（1478）

畠山義就（畠山方）

遊佐

誉田正康？

三宅（三アケ）

文明十五年六月二十七日（1483）『蜷川家文書』「足利義政東山山荘移徒禧物手日記」

畠山政長（管領）

土肥（六郎右衛門）

畠山義統？（左衛門佐）

遊佐長直（河内守）

神保長誠（宗右衛門）

遊佐長衛？（新右衛門）

椎名

平（三郎左衛門）

畠山政元（播磨三郎）

文明十五年九月（1483）

畠山義就（右衛門佐）

隅田（與三左衛門）

甲斐庄

木沢（木雑）

須屋（スヤ）

花田家清

誉田正康

遊佐

斎藤（彦次郎）

畠山政長

遊佐長直

椎名

「諸大名被官少々交名事」

畠山

遊佐

神保

土肥

椎名

誉田（挙田）

甲斐庄（かいの庄）

畠山義統

三宅

遊佐

斎藤

『文明十六七年記』延徳二年十二月十二日条

畠山義就（右衛門佐）

遊佐就家

遊佐就盛（中務丞）

誉田正康？

平

花田家清

豊岡慶綱

小柳貞綱

斎藤（済藤）

『蔭涼軒日録』明応二年四月二日（1493）

畠山政長（左衛門督）

畠山尚順（尾張守）

畠山政元？（播州）

斎藤（六郎左衛門尉）

根来（せんしきはう）

遊佐長直（河内守）

三宅

神保

畠山義豊？（敵）

（田い庄）

誉田

越智

古市（ふるいち）

（はせを）

高田（たか田）

万歳（まんさい）

甲斐庄（かいの庄）

（ゑなみ）

井口（いのくち）

（かいてきさうまこ次郎）

『蔭涼軒日録』明応二年閏四月二十五日（1493）

畠山政長（左衛門督）

畠山尚順（尾張守）

畠山政清（駿河守）

石垣政光？（中務少輔）

遊佐長直（河内守）

遊佐（同息又太郎）

遊佐長恒（河内守弟兵庫助）

遊佐長滋（同名加賀守）

遊佐直武（九郎次郎）

遊佐（又五郎）

平知久（三郎左衛門尉）

丹下（三郎右衛門尉）

土肥（六郎右衛門尉）

長井

斎藤（兵庫助）

三宅（四郎次郎）

相楽（新）

柘植（次郎左衛門尉）

柘植（同右京亮）

柘植（同弥太郎）

池田（三郎）

林

神保長通（出雲守）

神保長重？（八郎）

神保（同三郎左衛門尉）

隅田

松岡

渋川

清田

高井田

真木

勝福寺

橋溝

森

椎名

『蔭涼軒日録』『晴富記』明応二年五月十九日（1493）

畠山義豊？（次郎）

畠山義英？（御曹司）

遊佐就盛（越中守父子）

遊佐（中務丞）

誉田

平

隅田

井口

甲斐庄

須屋（陶屋）

木沢（木澤）

斎藤

江南

花田

宮田

越智

『蔭涼軒日録』『北野社家日記』明応二年七月（1493）

畠山義豊（霜臺）

畠山義英（御息）

遊佐就盛（越中守）

遊佐（中務）

平

木沢（木澤）

隅田

明応三年十二月十七日（1494）『九条家歴世記録』

畠山義豊

遊佐（湯座）

誉田

明応六年五月二十一日～七月二十四日（1497）『師淳記』『大乗院寺社雑事記』

畠山義豊（屋形）

遊佐就家？（河内守）

遊佐（孫六・弥六）

誉田正康？

平（父子）

井口

日根野（日根・比根野）

『高野山加明院勧進帳』大永七年六月

畠山稙長？（鶴寿丸）

（山門阿闍梨位雲海）

畠山義総？（修理大夫）

石垣材堅（中務少輔）

畠山順光（式部少輔）

遊佐長教？（河内守）

誉田真康（まこたらうどの）

遊佐直賢？（筑前守）

丹下盛賢（備後守）

草部伊家？（民部丞）

（破軍）

三宅道三（兵部入道）

池田光遠（新兵衛）

足代行忠（あしろ安芸入道）

（七郎左衛門尉）

走井盛秀（四郎兵衛尉）

頼次（右衛門尉）

能登畠山七人衆

遊佐続光、遊佐宗円、長続連、温井総貞、三宅総広、平総知、伊丹総堅、

「天正元年大宮司宿祢旦那衆」（気多社文書）（前欠）

能登衆

畠山義慶（修理大夫殿）

畠山義隆（二本松殿）

畠山家継（将監殿）

石垣和満？（治部大夫殿）

弥太郎殿

石垣深政？（刑部少殿）

吉見三郎殿

吉見七郎殿

西方殿　野間殿

寺岡（紹経）殿

面々次第

遊佐続光（美作守殿）三百　他内百

神保長秀？（宗左衛門尉殿）百

三宅長盛（備後守殿）五十

遊佐信濃守殿　七十

伊丹続堅（宗右衛門尉殿）五十

平堯知？（賀々守殿）百五十

誉田遠江守殿　五十

三宅総広？（筑前守殿）五十

神保長頼？（周防守殿）五十

三宅宗隆（小三郎殿）六百

長続連（対馬守殿）三百

温井景隆（備中守殿）千

飯河若狭守殿　弐百

遊佐秀倫？（左馬頭殿）卌

隠岐豊前殿　七十

佐脇源左衛門尉殿　七十

松波義親（常陸殿）

弥郡丹後殿　卌

飯河左京殿

同肥前殿

三宅丹波守殿

　五郎ゑもん殿　此三人　三十

同弾正殿

佐脇綱隆（美濃守殿）

徳田秀章（佐渡殿）

万行殿　圓山殿

小嶋殿　太田殿

武部殿　豊田殿

遊佐豊後殿　柳川殿

同十郎左衛門尉殿　土田殿

天野石見殿　深野殿

加治殿　高津殿

温井光宗（下総殿）

温井続基（同山城殿）下々有レ之

温井景続？（同五郎左衛門尉殿）

温井続広（同藤八郎殿）

長名字

飯河名字

足利御一家・畠山氏

畠山氏は斯波、吉良とは違った意味で有力な足利一門です。

斯波氏を始め、他の一族は足利氏の分家であるのに対して、畠山氏は元来、足利氏と同格の御家人だったからです。

鎌倉幕府初期に畠山重忠が北条氏によって滅ぼされた時に足利義兼の子・義純が重忠の未亡人？（重忠の娘説の方が説得力があるが）を妻として跡を継ぎました。

義純は足利義兼の長子として生まれ足利太郎と名乗りましたが、母の身分が低かったためか、新田義兼の婿養子となって岩松次郎を名乗り、今度は畠山氏を継いで畠山三郎となったと言います。と言うわけで岩松氏（室町時代以降の新田惣領家）も義純の子・岩松時兼から始まります。

畠山未亡人は北条時政の娘（ちなみに義純の弟で足利惣領の義氏の母も北条時政の娘）であり、義純は彼女（或いは彼女の娘）と結婚し、畠山泰国が生まれた、と言うわけで泰国は北条氏の血をひくため、有力御家人として北条氏に厚遇されました。

畠山氏の本来の惣領家は奥州探題となった二本松家ですが、結局は国清（阿波家）・義深（尾張家）兄弟の系統が幕府内で中心となります。

畠山国清・義深兄弟が力を持つ契機となったのは、平一揆を指揮下に置いたことではないかと思われます。

平一揆の構成メンバーの中核は河越氏、高坂氏、江戸氏ら秩父平氏の一族でした。

つまり畠山国清・義深は、血統が足利一族、家系は秩父平氏（畠山重忠の名跡）という条件によって、平一揆という巨大な軍事力を持つことができたために、幕府内での地位を高めたと思います（後に国清は没落するが、義深が復権します）。

阿波家は和泉・河内・紀伊・伊豆・武蔵守護や関東執事を歴任した国清に始まる家ですが、国清没落後は振るいませんでした。

尾張家は三管領の一つとなりますが、持国の後、義就と政長とで分裂します。

匠作家は尾張家の基国（義深の子）の次男・満則に始まり、阿波家の官途・受領を引き継ぎ、能登守護や管領（代）を務めます。

遊佐国久

　寛正二年四月二十七日に畠山義就の下で河内守護代（あるいは錦部郡守護代）とみられる国久は神保氏とされていますが、遊佐氏であり、遊佐国助の嫡子と考えます。国久からの文書は中村助通に出ており、中村助通は遊佐国助の小守護代であり、偏諱を受けた人物です。

　遊佐国久は文明八年四月二十三日興行の連歌に畠山政長や杉原賢盛や草部盛春と登場します。

　嘉吉二年八月（1442）畠山持国、遊佐国助？（弾正）

　享徳四年七月（1455）畠山義就、遊佐国助（河内守）、遊佐国久？（弾正忠）

　長禄四年九月（1460）畠山義就、畠山政国、遊佐国久？（壇正）、誉田久康

　長禄四年十月（1460）畠山義就、遊佐国助（河内守）、誉田久康

　寛正二年四月（1461）畠山義就、遊佐国久？（神保国久？）、中村助通

　文正元年十二月（1466）遊佐就家、中村家通

　応仁二年五月（1468）畠山義就、遊佐就家、遊佐盛貞（越中）

　文明元年七月（1469）遊佐就家（五郎）、遊佐盛貞（越中）

　文明二年一月（1470）遊佐就家（五郎）、遊佐盛貞（越中守）

　文明三年六月（1471）畠山義就、遊佐就家（五郎）

　文明八年四月（1476）畠山政長、遊佐国久（弾正）

　文明九年十月（1477）畠山政長、遊佐国久（弾正忠）

　となり、1460年の遊佐国助戦死後に弾正忠国久が後を継いだと思われますが、その後、若年の五郎就家が畠山義就の筆頭家臣といえる地位につき、 国久はなぜか畠山政長の家臣として登場します。

　少なくとも享徳・長禄年間の遊佐弾正忠は後の五郎就家ではありえず、河内守国助と五郎就家の間に遊佐弾正忠が存在するのは間違いありません。

木沢氏

木沢氏は口語では「きざわ」と読むのでしょうが、文語では「きぞう（木雑・木蔵）」と書かれていたようです。

細川家の十河氏が「そごう」と読まれますが「そかう」と書かれていました。

同じく細川家の香河氏も当時「かかう」と書かれ「かごう」または「かがわ」と読まれていたと思われます。